新品種候補（2012 年1 月作成）

育種事業課題名：そば新品種候補系統「レラノカオリ」の概要
担当部署：農研機構・北農研・畑作研究領域

キーワード：そば、早熟、多収、大粒、製粉特性

１．特性一覧表

系統名：レラノカオリ(旧系統名、北海11号)由来：遺伝資源「端野・緋牛内」からの選抜

特性：長所　１．子実重は「キタワセソバ」並みからやや多収である。
　　２．「キタワセソバ」よりも千粒重がやや重く、大粒の割合が高い。
　　３．臼すり合わせ法による製粉特性が優れる。
　　短所　１．容積重がやや軽い。

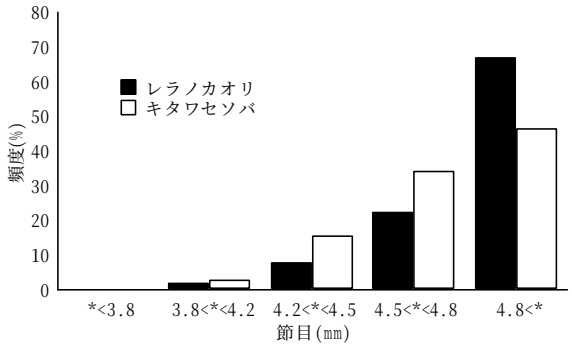
採用県と普及見込み面積：北海道 3100ha

特性一覧表

調査場所	北海道農業研究センター(芽室)		中央農試		深川市		滝川市		旭川市	
調査年次	平成21～23年		平成21～23年		平成22～23年		平成22～23年		平成22～23年	
品種名 / 項目	レラノカオリ	キタワセソバ(標準・対照)	レラノカオリ	キタワセソバ(標準・対照)	レラノカオリ	キタワセソバ(標準・対照)	レラノカオリ	キタワセソバ(標準・対照)	レラノカオリ	キタワセソバ(標準・対照)
播種期	6.02	6.02	6.03	6.03	6.08	6.08	6.08	6.08	6.16	6.16
開花期	7.08	7.08	7.08	7.08	7.10	7.10	7.10	7.10	7.17	7.17
成熟期	8.15	8.17	8.15	8.17	8.25	8.24	9.09	9.11	9.06	9.06
草丈(cm)	105	112	126	131	125	129	138	142	116	132
第一次分枝数	2.0	2.0	2.4	3.0	2.3	2.5	2.9	2.8	1.5	2.1
倒伏程度	1.1	1.3	1.4	1.7	1.3	1.3	0.0	0.0	0.0	0.5
子実重(kg/10a)	187	187	152	149	189	170	159	158	122	117
標準比(%)	100	100	102	100	111	100	101	100	105	100
容積重(g/L)	564	594	589	616	569	574	490	527	586	602
千粒重(g)	30.7	29.5	32.6	31.4	30.8	28.6	31.5	31.5	32.5	30.6
製粉歩留	67.2	66.8	71.7	71.9	69.9	71.2	66.8	69.4	71.4	70.9
検査等級(H23)	外	外	2	2	外	外	3	外	3	3

遅刈子実重*	早播(kg/10a)	198	190
	標準比(%)	104	100
	標播(kg/10a)	211	191
	標準比(%)	110	100
ルチン含量(mg/100gDW)		12.6	17.2
食味		中	中
伸育性		無限	無限
生態型		夏型	夏型
草型		直立短枝型	直立短枝型
花色		白色	白色
完熟粒の果皮色		黒色	黒色
粒形		三角形	三角形

子実重は成熟期である黒化率80%で収穫。製粉時の脱皮はインペラ式による。
*：黒化率95%以上で収穫。平成22、23年平均。



玄そば粒径の分布
北農研、平成22～23平均。

玄そばの製粉特性（実需Ａ社による評価）

品種名	脱皮歩留(%)	製粉歩留(%)
レラノカオリ	70.8	64.8
キタワセソバ	67.9	62.1

平成21～23年平均。　　深川産の玄そば使用。
脱皮は臼すり合わせ法、製粉は石臼法。

２．「レラノカオリ」の特記すべき特徴

「レラノカオリ」は草丈がやや低く、成熟期が「キタワセソバ」よりも 2 日程度早く、子実重は「キタワセソバ」並みからやや多収である。千粒重は「キタワセソバ」よりも 1～2g 重く大粒である。実需ラインによる脱皮歩留、製粉歩留に優れる。

３．優良品種に採用しようとする理由

農業者戸別所得補償制度における対象作物になったこともあり、全国的にもそばの作付は増加傾向である中で、北海道のそば栽培面積は、平成 23 年は前年比約 3,000ha 増の約 18,500ha へと急増した。北海道は全国生産の 1/3 を占める大産地であり、国産そばの牽引役として重要な位置を占める。府県のそば産地では夏季のそば需要を見据えた新品種導入やブランド品種の地域特産化が進むなかで、北海道では「キタワセソバ」（平成元年育成）が全道のそば栽培面積の９割以上を占める状況にある。そのため、多収品種による特産化を求める生産者や、製粉特性の優れた品種を求める実需者から需要拡大につながる新品種を求める要望が強い。

「レラノカオリ」（旧系統名、北海 11 号）は平成 22 年に品種登録された。「レラノカオリ」は「キタワセソバ」よりも千粒重がやや重く、大粒であることから夾雑物の除去などの調製作業性に優れ、且つ実需者ラインでの製粉特性にも優れ、食味は「キタワセソバ」並みである。収量は「キタワセソバ」並みからやや多収である。以上のことから、「レラノカオリ」は生産者、実需者の期待に応えることができる。

今後「レラノカオリ」を全道の「キタワセソバ」の一部に置き換えて普及し、ニーズに対応した地域特産品目として生産を図ることで道産そばの生産振興に貢献する。

４．栽培適地

北海道一円

数字は「レラノカオリ」の
収量の「キタワセソバ」比

括弧内は遅刈の収量比

５．栽培上の注意

１）早刈りすると容積重が小さくなるため適期収穫に努める。

２）他品種と交雑するので、採種圃場は集団的に隔離栽培する。